

掲載日 (2022/12/2)

### 書籍の概要

近代都市としての佐世保は、他の軍港都市と異なり、長崎県北部や離島に対する中心都市としての位置づけがあり、物資供給の要となる問屋機能も含めて発展したという特徴がある。敗戦後の佐世保は、中国からの復員船が到着する港でもあり、その復興が大きな課題となった。平和港湾産業都市構想が、朝鮮戦争や海上特別警備隊の設置などの社会情勢に押されて、しだいに軍港論に変化していく様子をも解き明かす。

### 著者から一言

本書は、軍港都市をめぐるさまざまな問題を、地域社会の視点から学際的に研究したシリーズの1冊です。佐世保編では、経済史研究者が中心となっていますが、地理学や政治史・軍事史からのアプローチも含まれており、また時期的にも明治から高度成長期まで幅広くカバーしています。

一執筆者として印象に残ったのは、佐世保に関する資料の少なさです。戦前期については地方紙すらほとんど残存しておらず、研究の組み立てに難儀しました。佐世保が軍港都市であったからこそ、こうした部分にも戦争の影響が色濃くあらわれているのでしょう。

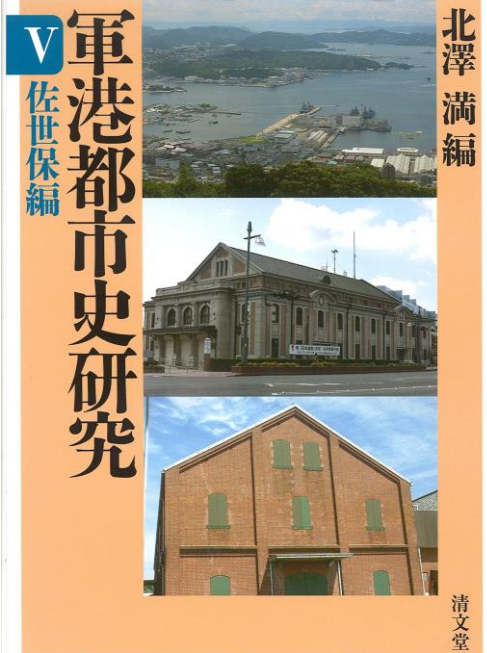
本書には、研究論文のみでなく、各執筆者によるコラム（私は、佐世保の菓子について書きました）も掲載されており、また表紙も含めて多くの写真・地図などの図像が用いられていることも特徴です。ぜひ、気軽に手に取ってみてください。

経済学研究院 北澤満

### 【お問合せ先】

九州大学 経済学研究院 北澤満 (キタザワ ミツル)

E-Mail : kitazawa\*econ.kyushu-u.ac.jp [\*を@に換えてください]



### 軍港都市史研究 5 佐世保編

北澤 満 編著

清文堂出版/356 ページ/2018年2月出版

### 目次

- 序章 産業構造からみる軍港都市佐世保
- 第1章 佐世保の「商港」機能
- 第2章 海軍練習兵たちの日常
- 第3章 軍港都市佐世保におけるエネルギー需給
- 第4章 せめぎあう「戦後復興」言説
- 第5章 旧軍港市の都市公園整備と旧軍用地の転用
- 第6章 一九六八：エンタープライズ事件の再定置